



THE ROTARY CLUB OF KOSHIGAYA-NORTH

第 2770 地区 第 8 グループ 越谷北ロータリークラブ

2024-25 年度国際ロータリーテーマ 「ロータリーのマジック」 RI 会長 ステファニー A. アーチック

ロータリーのマジック 2024-25 年度越谷北 RC 会長提言 「伝統を愛し、変化を楽しむ」 越谷北 RC 会長 江口 公晴

- | | |
|---------------------------|-----------------|
| ● 例会日 毎週水曜日 12:30~13:30 | ● 会 長 江 口 公 晴 |
| ● 例会場 越谷市千間台東インペリアルビル 4 階 | ● 副 会 長 大 島 直 幸 |
| TEL 048 (975) 9898 | ● 幹 事 伊 藤 純 |
| FAX 048 (977) 3741 | ● 会報委員長 中 澤 伸 浩 |
| ● 創 立 1976 年 5 月 11 日 | |

第 2335 回 例会記録 No. 3

令和 6 年 7 月 17 日

司会: 佐藤 要 編集: 近藤 慎悟

会次第

1. 点鐘
2. ロータリーソング 「それこそロータリー」
3. ロータリーの目的
4. 会長挨拶
5. 幹事報告
6. 雑誌記事紹介
7. 委員会報告
8. 部門セミナー報告

会員組織部門 大島 直幸 部門委員長
 クラブ活性化委員会 長谷川 真也 委員長
 会員増強維持委員会 渡辺 裕介 委員長
 公共イメージ部門 近藤 慎悟 部門委員長
 クラブ研修リーダー 関 雄二郎 会長エレクト

9. 出席報告

【次回例会案内】

令和 6 年 7 月 30 日(火)

第 15 回 越谷ジュニア甲子園野球大会

至 : 越谷市民球場

例会開始 9:15 ~

会長挨拶



江口 公晴 会長

皆様こんにちは。

本日は、3 回目の会長卓話になります。先週、先々週は時事をテーマにした卓話をさせていただきました。私がイニシエーションスピーチを行ったのは 2014 年の 1 月でした。その後にご入会された会員も多くいらっしゃいますので、今回は改めて自己紹介をさせていただければと存じます。

私は昭和 45 年(1970 年)11 月 23 日、東京・赤羽の普通のサラリーマン家庭で生まれ育ち、28 歳まで赤羽に住んでいました。今でこそ B 級グルメの聖地、せんべろの街、昼飲みが楽しめる街等、楽しくお酒を楽しめる街という明るいイメージでマスコミに取り上げられることが多い赤羽ですが、私が住んでいた頃はとてもそんな雰囲気のある街ではありませんでした。

赤羽駅東口に赤羽 1 番街という商店街があるのですが、当時は昼飲みどころか朝から飲み始める人たちが結構いました。



私は学生時代にその 1 番街の入口にあるマクドナルドでバイトしておりましたが、朝の時間帯で入ると 6:30 の開店時には朝まで飲んでいて方々が来店されるのですが、午前 10 時位でも酔った方が来店されることがありました。

1 番街には最近の街歩きのテレビ番組でもよく登場するお店で「まるます家」というお店が古くからありまして、そこでは当時ひとり 3 杯までという決まりがあるにもかかわらず、なぜか朝から酔っている方がたくさんいたのを覚えています。ここは本当に 3 杯までしかお酒を出してもらえず、4 杯目を頼もうとすると「もうダメ」と断られてしまいます。数年前に久しぶりに行ったときもその厳しいルールは変わっていませんでした。ここは鯉の洗いや鰻の蒲焼といった川魚料理がとても美味しいので赤羽に行かれた際は是非とも 3 杯限定で立ち寄っていかれることをお勧めします。

また両隣を足立区と板橋区に囲まれているので当時の赤羽はけんかも多く、特に年に一度の「馬鹿祭り」というお祭りのときにはすごかったです。小学校中学校のときは「自分の身は自分で守らなくては」と思いながら日々腕立て伏せをしていたのを今でも覚えています。

そのような青少年健全育成には向かない当時の赤羽で小学校中学校に通い、高校は中央大学杉並高校に進学しました。最寄り駅は荻窪駅で、やはり昔ながらの居酒屋が多いせんべろの街でした。ただ、赤羽と比べると飲んでいる方々が品行方正と申しますか、泥酔していたりケンカしている場面には出くわすようなことはありませんでした。国立や田園調布から通っていた友人は昼間から飲んでいる方々にカルチャーショックを受けていましたが、私はその友人たちの様子を見て「やはり昼間から大人が飲酒している街は普通じゃないのかもしれない」とショックを受けたのを覚えています。

大学はそのまま中央大学に進学しました。数年前にお茶の水に新しいキャンパスができましたが、当時は八王子の山の中にありました。今でこそ立川からモノレールが開設したので大学の目の前に駅がありますが、当時は京王線の多摩動物公園駅から歩かなければなりませ

んでした。

登校時は上り坂になり山道を 15 分くらい歩きます。まさに毎日山登りでした。通学ルート最後に細いトンネルがあるのですが、そこを抜けると山道の風景から一転して大学のキャンパスが広がるので、学生は「トンネルを抜けるとそこは大学だった」と言いあいながら通っていたのを覚えています。丘陵地を切り開いてできたキャンパスなので学校に到着してもとにかく階段が多く、教室に着くまでかなりの運動になりました。

このようなロケーションですから、大学に入学してすぐは憧れのキャンパスライフということで男女問わずおしゃれをして、その頃流行っていた紺のブレザーを着て男性は革靴、女性はパンプスを履いたり中にはヒールを履いて通学するのですが、皆 1 週間もすると T シャツ・トレーナー・G パン・スニーカーになりました。この多摩動物公園から大学までの通学路には、当時「マムシに注意」の看板がいくつか掲げられており、大学の保健センターにはマムシの血清が常備されていました。当時、中央大学は都内で唯一マムシの血清が常備されている大学と噂されていました。

そのような過酷な大学生活を過ごした後、平成 5 年にデパートの高島屋に就職しました。当初は日本橋高島屋の外商部に配属されました。皆様方も百貨店の外商が入っていらっしゃるかと思いますが、私は武蔵野市三鷹市が担当となり吉祥寺あたりを中心としたエリアの約 250~300 軒のお客様のところへお伺いしておりました。

平成 8 年 10 月に新店舗として新宿店がオープンしました。私は担当エリアが武蔵野三鷹だったことからその年の 4 月より新宿店外商部に異動になり、開店準備に携わることができました。外商部でしたので開店準備の実務としては新規外商顧客開拓がタスクでしたが、訪問先の見込み客の方に新店情報をお伝えするために準備中の店内を定期的に見回っていましたので、工事が進んでいくのを間近で見ることができたのはいい思い出です。

そして、その当時の外商顧客の中で当時 20 代だった私を可愛がってくださった中小企業の社長がいらっしゃいました。銀座に連れて行っていただいたことも何度もあ



りました。あるときその方に「お前はずっと会社の歯車である気か。独立して自分でやる気はないのか。」とおっしゃっていただいたのが、一念発起して資格を取得し、独立しようと決意するきっかけでした。

赤羽のサラリーマン家庭で生まれ育った私が、まさか越谷の地でロータリークラブの会長になる日が来るなんて、私自身が今でも一番信じられない気分ですが、その方との出会いがなければ、今ここで皆様の前でお話をすることはなかったかもしれません。

さて、資格を取得して行政書士として開業してから、の話ですが、これは今年の会員卓話のテーマは「私の〇〇について」ですから、「私の職業について」というテーマで、いずれ会長卓話でお話したいと思います。

本日もよろしくお願ひいたします。

集人数は96組先着順となり、コースにつきましては栃木市のプレステージカントリークラブとなります。登録料振込期日が、お盆明け8月19日となっておりますので、ご参加頂ける方はお早めに幹事、伊藤まで申しつけてください。案内を掲示板に掲示しておりますので詳細ご確認下さい。

・岡村ガバナー、中里指名委員長連名で2027~2028年度ガバナー候補者の推薦について正式公募が届いております。9月30日応募締め切りとなっております。掲示板に掲示しておりますのでご確認お願い致します。我こそはとの方がいらっしゃいましたら幹事、伊藤まで申しつけてください。

雑誌記事紹介



伊藤 純 幹事



関 雄二郎 会員

『「友」のあゆみ』

●新しい雑誌の発行が決定

1952(昭和27)年4月、第60地区の大会が開催されました。同年7月に迎える新年度(1952-53年度)から、日本の地区は、東日本と西日本の2地区に分割されることに決定されていまして、主催者も参加者も、共に深い感慨をもって臨んだ特別な地区大会でした。この地区大会では、いくつかの問題が話し合われましたが、その一つに、日本の2地区で共通の雑誌を発行するとの決定がありました。

これまで共に活動してきた日本のロータリアンが、分割されてからも緊密に連絡を取り合い、情報を共有するための機関誌として、企画されたのです。

幹事報告

(クラブより)

・例会場のFAXにつきまして先週の火曜日から回線トラブルが発生しており送受信が出来ない状況となっております。その事態が昨日発覚し、昨日の午後から復旧となりました。先週のFAXが昨日送付やFAXが送れない等、皆様には大変ご迷惑をお掛けしましたこととお詫び申し上げます。申し訳ございませんでした。以降再発防止に努めてまいります。

(地区より)

・地区大会記念ポリオ撲滅チャリティゴルフコンペのご案内が届いております。日時は10月21日月曜日、募



●『ロータリーの友』と命名

新しい雑誌について本格的にいろいろなことが決められたのは、同年 8 月 16 日、岐阜市の長良川河畔にあった大竹旅館での会合においてです。1953(昭和 28)年 1 月から、毎月発行すること、価格を 50 円とするが、広告を取って 100 円分の内容のある雑誌とすること、名前を『ロータリーの友』とすることなどが決定されました。また、この会合では、新しい雑誌を縦書きにするか横書きにするかで意見が分かれ、全会員による一般投票を行ったところ、2 対 1 の割合で、横書きが採用されることになりました。戦後 10 年もたっていない時代背景を考えると、この結果は、当時のロータリアンが、いかに先進的な考えをもっていたかを知ることのできるエピソードです。

岐阜での会合で、広告を取ることが決定したものの、当初は発行部数が 3,300 部にすぎなかったこと、また、戦後の混乱が少し落ち着いたというものの、まだまだ経済的には厳しかったこともあり、広告のスポンサーを見つけることは容易なことではありませんでしたが、創刊に携わったロータリアン自らが走り回り、苦勞して広告を取ったという逸話が残っています。

創刊号は富士山の表紙です。この表紙、1 月号から 6 月号まで、北斎の「凱風快晴」という題の作品が使われました。表紙の写真や絵が毎月替わるようになったのは、創刊翌年の 4 月号からです。毎月同じ絵柄の表紙とはいうものの、それぞれの色が随分違っているのは、デザインでしょうか、当時、カラー印刷の技術が進んでいなかったためでしょうか。

最初、横書きでスタートした『ロータリーの友』ですが、その後、俳壇、歌壇など、横組みでは具合の悪い欄が始まり、これらを縦書きで入れることになりました。1972(昭和 47)年 1 月号から、縦書き、横書きを分けて、それぞれに表紙をつけました。左に開けると横書き、右に開くと縦書きという形の雑誌になりました。両面が表紙になった最初の号の表紙は陣羽織で、横書きは前から見たところ、縦書きは後ろから見たところ、というように、両面表紙の特徴を生かした面白いものになっています。

●国際ロータリー公式地域雑誌に

1977 年、標準ロータリークラブ定款第 10 条(現 14 条)の改定に伴い、公式地域雑誌(現ロータリー地域雑誌)の規定が設けられました。これにより、ロータリアンは国際ロータリー(RI)の機関誌『The Rotarian』だけでなく、RI が指定した公式地域雑誌を購読することで会員としての義務を果たすことができるようになりました。

『ロータリーの友』は、1979 年 7 月号から 1 年間の試験期間を経て、1980 年 7 月号から RI 公式地域雑誌になりました。公式地域雑誌の要件はいろいろと定められており、また、時代とともに多少変化をしています。

2003 年 1 月に創刊 50 周年を迎えるに当たり、これまでの良い伝統は継続しながら、新しい 50 年のスタートにふさわしい新鮮な『ロータリーの友』にするにはどのようなすればいいのか、2001 年秋から検討に入り、2002 年 7 月号から誌面を一新しました。

サイズを B5 判(天地 256 ミリ×左右 182 ミリ)から A4 変型判(天地 280 ミリ×左右 210 ミリ)に変更。カラー写真のページを巻頭にもってくるなどして、親しみやすい『ロータリーの友』を目指しました。この時、用紙もカラー写真がきれいにできるように、それまでより白い紙に替えました(2006 年 7 月号からは、さらに白い紙に変更)。このサイズの変更と合わせて、事務所内でのコンピューター編集に切り替えました。このことによって、それまでより自由な誌面づくりができるようになり、またコスト削減も実現しました。さらに 2016 年 7 月号からは、サイズを A4 判(天地 297 ミリ×左右 210 ミリ)に変更しました。

「ロータリー地域雑誌」の要件の一つに『The Rotarian』から指定された記事を掲載しなければならないという項目があります。写真を郵送していた頃には同時掲載は不可能でしたが、IT 技術の進歩に伴い、2004 年 1 月号からは、これらの指定記事が『The Rotarian』と同じ月に掲載できるようになりました。記事についても、毎年度見直し、新しいコーナーを設ける一方で、古いコーナーを中止したりしています。2004 年 11 月号からは、毎月一人ずつのロータリアンを紹介する「風紋」がスタートしました。外部の記者とカメラマンによる取材記事



は、それまでになかったことで、ロータリアンやロータリーを客観的に見た記事によって、あらためてロータリーの良さを知る機会にもなっています。その後、クラブを紹介する「手に手 クラブ探訪」、ロータリアンを職業の面から紹介する「この人 この仕事」、「わがまち……そしてロータリー」、「クラブを訪ねて」と、少しずつ形を変えながら、このシリーズは続いています。また、パズル（「パズル de ロータリー」）や本の紹介（「私の一冊」）のコーナーを設け、より親しんでもらえるよう工夫をしています。

●インターネットとの共存

50周年を迎えるために『ロータリーの友』をリニューアルしようと企画を立てていたときに出てきたのが、新しいメディアのインターネットとどのように共存、住み分けをするかということでした。そこで、『ロータリーの友』のホームページを開設して、インターネットというメディアにふさわしいコンテンツを入れ、印刷媒体の『ロータリーの友』との共存、住み分けを図り、日本のロータリアンの皆さまにより早く、より幅広く、より便利に情報を届けようということが決まりました。

この決定に従って、2003年7月1日、『ロータリーの友』ホームページを開設しました。ここでは全国のロータリークラブの例会一覧表、国際大会や国際協議会の速報、さらには、ロータリーの基礎知識的な資料を提供してきました。2006年秋、ガバナー会から rotary.or.jp のドメインが移譲され、ロータリーの友委員会で検討を重ねた結果、名称を『Rotary Japan』に変更、内容や画面をリニューアルして、2007年3月から新しい名前で情報提供をしています。

2010年4月に開催された規定審議会の採択によって、アメリカとカナダのロータリアンは、これまでの印刷版だけではなく、電子版で『The Rotarian』を受け取ることができるようになりました。2013年4月に掲載された規定審議会では、ロータリー地域雑誌も電子版で受け取ることができるようになりました。この決定にともない、『ロータリーの友』も2014年1月号から電子版を発行しています。最新号は毎月1日に更新されます。

『ロータリーの友』の記事を、より深く、より広く、理解し活用いただくため、ホームページを『ロータリーの友』の補完に集中することになり、2016年7月1日から『ロータリーの友』ホームページ(www.rotary-no-tomo.jp)に戻しました。

会員への機関紙ですが、ロータリーの活動を理解してもらい会員増強のツールとして活用されてはいかがでしょうか。

委員会報告

社会奉仕委員会 大塚 具視 委員長

ジュニア甲子園野球大会開催のお知らせです。7月30日(火)集合時間7時30分、委員会メンバー7時15分。例会も行われますので、日時・時間をお間違えないようお願い致します。場所は市民球場です。

8月5日(月)15時30分から閉会式となります。多くの皆様のご参加を期待しております。期間中におきましては、時間の許す限り観戦に来て頂きたいと思っております。

部門セミナー報告



会員組織部門 大島 直幸 部門委員長

先日行われた3部門合同セミナーに参加してきましたので報告します。今回は部門毎の分科会は行われず、管理運営部門・公共イメージ部門・会員増強維持部門がすべて同じプログラムを受講しました。今年の地区は会員増強が最優先事項ということでガバナー挨拶や講演内容はそれに準じたものでした。前半の基調講演は高崎ロータリークラブの田中久夫パストガバナーが「クラブ活性化のために」という内容で講演され、非常に内容



が興味深く、居眠りせずに聞くことができました。
講演では会員を増強するには今現在クラブの会員である我々がどれだけ魅力的になれるかが重要だと説いていました。

今回の講演の内容はパワーポイントにて配布されておりますので、必要な方は伊藤幹事まで問い合わせただけたらと思います。



クラブ活性化委員会 長谷川 真也 委員長

「クラブ活性化を阻む 5 つの壁」

【困ったクラブに共通する問題点】

- 1 シニア会員の自覚と立ち位置
- 2 新会員へのフォローの不足
- 3 クラブ会長のヤル気の不足
- 4 日本版“DEI”の存在
 - 1) D (Diversity 多様性)
 - … 女性会員問題
 - 2) E (Equity 公平さ)
 - … 若手会員 (年齢格差・年齢序列) 問題
 - 3) I (Inclusion インクルージョン)
 - … クラブの文化 (会員の居心地) 問題
- 5 放っておいても拡大するクラブと放っておいたら消滅するクラブ

自覚して改善して欲しい人

1 “老太狸暗”?

老太狸暗を「ロータリアン」と読みます そのココロは、
「老」: クラブの将来にはまったく関心がなく、自分のことだけに執着している人

- 「太」: 自分が得をすることだけに腐心していて、まるで行動 (寄付等) が伴わない。
口先だけの人、ジコチュー (自己中心)
- 「狸」: クラブ・地区等の活動には参加せず、汗をかかないようにふるまう狡猾な人
- 「暗」: その人がいるだけで周囲が暗くなるような負のオーラを持った人

このような人が好んで集まるクラブに将来はない。

- 2 (シニア会員) 自覚するべきことを正しく認識できない
- 3 新会員へのフォローができない現会員
- 4 会員増強にヤル気のないリーダー
- 5 “DEI” に馴染めない人これが俺たちのクラブの“シキタリ”だ。クラブの“文化”だ、放っといてくれ。クラブは楽しくなければ意味はありません。但し当クラブは、大丈夫です。



会員増強維持委員会 渡辺 裕介 委員長

皆様こんにちは。7月15日に大宮ソニックシティにて開催された3部門合同セミナーの会員増強維持部門のセミナー報告をさせていただきます

1. 目標

2024-2025年度国際ロータリーは全地区に対して、会員100名の増強と4クラブの新設を求めています。

現状では毎年100名を超える新会員を迎え入れているが、その裏で毎年200名程度の退会者が存在している。これでは本当の増強とはいえない現状です。

2. 対策

会員数の増加を目指すためには、退会者の減少をさ



せることが急務であり、そのためには、クラブを活性化させ、会員のロータリーに対する理解度を高め人材育成をしていく事が極めて重要です。

3.岡村ガバナー今年度の会員増強方針

2770 地区では 10 年以上に亘って会員数が減少し続けていることに従い、既存クラブにおいては現実的な増強数である地区全体で 30 名達成を掲げています。

踏まえて…

- ・奉仕活動により地域の皆様にロータリーの活動を広く認知していただく
- ・会員は事業において積極的に参加をする PR 活動
- ・クラブが新しい奉仕活動を創造して実施していく過程において(挑戦)

ロータリアンではない必要な人材に協力を求め、ロータリーの事業を成功させる中で勧誘していく事が、活性化に大きく寄与し、増強に結びついていく。古きよきものは後世に繋いでいき新しい活動にチャレンジするいい機会なのかも。ご清聴ありがとうございました。

◆増強事例

事例① 三浦ロータリークラブ



・昨年度創立60周年

三浦ロータリークラブの活動を理解し、賛同をしていただける同士を探し続けたい。60年という歴史を見つめないし、クラブ一丸で行動し、成し遂げ、記憶に残る年にしたい。

2022年7月1日会員数29名 → 2023年6月30日会員数 **59名**

三浦ロータリークラブ 幸せの黄色い封筒



Rotary

中には「クラブの入会申込書」を同封

クラブのパンフレットや、活動紹介、ロータリーの友のコピーなどを一緒に入れるのもお勧めです。



三浦ロータリークラブ

- ・空気、雰囲気の良い
- ・ワクワク
- ・「増強をしなければならないという義務感ではなく、楽しみながら増強ができるようになった」
- ・「これまでの三浦ロータリークラブの活動で、こんなに楽しかった年はない(ベテラン会員)」
- ・夜間例会の実施・オープン例会の実施

その結果、**倍増以上のプラス30名の入会。退会ゼロ！！**



元気なクラブには 共通点があった！



増強・維持に成功したクラブの共通点

- ① 覚悟を決めたリーダーがいた(会長または増強委員長)
- ② やるときめたらやる！
- ③ これまでにやってこなかったことも積極的にチャレンジ(オープン例会や夜間例会、ゲストを呼ぶ親睦懇親会など)
- ④ 地区委員会との連携、AGとの連携が上手だったクラブ(情報収集にとんでいて、つねに柔軟に方向転換もしながら動いていた。また、他のクラブの事情を聞きながら自クラブの行動にすぐ活かす姿勢。そして何よりも困ったときの相談にのってもらえる)
- ⑤ クラブの目標や戦略計画が明確にある

元気なクラブの共通点

- ① クラブとしてのありたい姿、目指す形が明確
→クラブビジョンを持っている・クラブ戦略計画を持っている
- ② 会員一人ひとりの声を聞く仕掛けがある
→情報集会・会員卓話・懇親会
- ③ 会員の維持率が高い
- ④ 会員増強に成功している

会員満足度が高い
=元気なクラブ！！



公共イメージ部門 近藤 慎悟 部門委員長



今回の3部門合同セミナーは分科会が無く、「会員増強一本」をテーマにして開催されました。全体を通しての印象ですが、かなり尖った内容でした。また、司会が大宮南ロータリーアクトの海野さんという方で、地区の会員増強維持部門の一員でもあるとのこと、岡村ガバナーの方針でもあるロータリーアクト・インターアクトの参画も進んでいると感じました。「会員増強一本」というテーマでしたが、公共イメージの側面から紹介していきます。

●ロータリーで会員を増やすためには

ロータリーは今まで「広く、一般の方々に認知を深める」という事で、明確なターゲット層が設定されませんでした。したが、「若者に届ける」が重要だと話されました。

また、内向きには「新会員のフォローが大切」というお話がありました。事例として、新会員の自己紹介動画があり、動画制作を通して、新会員がクラブに参加、居場所ができ帰属意識が高まり、出席率が向上したそうです。

全体を通して、外向きにも内向きにも「若手」をターゲットとしたネットニュース、SNSをメインとした広報活動の検討をしてもらいたいという内容となりました。



関 雄二郎 会長エレクト

ロータリー活動においてかけることが出来ない歯車として3部門合同セミナーが開催されました。地区運営方針「未来を見据えて変化しよう」「多様性を力に」、ロータリーの理念である「4つのテスト」と「ロータリーの中核的価値観」この二つはどんな時代においても普遍的なロータリーの理念です。この理念を改めて円滑なクラブ運営

のなかで分かち合い、その大切さを認識し会員全員が世界の変化に伴い多様性のある持続可能な変化をしていく必要があります。行動を起こすのは自分自身です。パスト会長やロータリー歴の長い会員、各委員長筆頭に楽しく元気が出る居心地の良いクラブとして、特に新入会員の方々への積極的に声掛けからよろしく願います。

スマイル報告

・本日セミナー報告よろしく願います。

江口 公晴

・本日も宜しく願います。

伊藤 純

・本日も宜しく願います。

渡辺 裕介

・本当は欠席ですが、時間があつたので寄らせて頂きました。

堀野 眞孝

・本日も宜しく願います。

松井 昭夫

・本日もよろしく願います。

石井 秀治

・本日も宜しく願います。

関 雄二郎

・世界平和のために。

宮崎 敏博

・本日はスマイルご協力ありがとうございました。

青木 清

出席報告

| | |
|-----|-------|
| 会員数 | 43名 |
| 出席者 | 38名 |
| 出席率 | 92.7% |

